

改正卸売市場法に基づく宮崎市卸売市場における花き部の取引ルールの策定について

事項	内容
①売買取引の方法 (せり・相対品目の設定)	<p>現行</p> <p>○きく、カーネーション、ばら、ゆり、チューリップ、スターチス、スイートピー、トルコギキョウ、らん類、葉もの、種苗、はち植のもの、花木、枝もの、乾燥・染色その他の方法で加工されたもの以外については、市長が別に定める割合(※最低せり数量要領にて50%)に相当する部分については、せり売り又は入札の方法で卸売をしなければならない。</p> <p>○市長が別に定める割合に相当する部分で相対売りを行う場合、卸売業者は開設者に承認申請書を提出し、開設者の承認を受けなければならない。</p> <p>改正</p> <p>○せり割合、相対割合の品目については、条例・規則では規定しない。</p> <p>○卸売業者は、買受人の需給バランスを考慮してせり・相対を設定するものとする。</p> <p>○開設者は、買受人の需給バランスを考慮してせり・相対を行っていないと判断したときは、卸売業者に改善を求めることができる。</p> <p>理由</p> <p>○日々の取扱数量に応じて柔軟に対応するため、規定しない。年定期的に開催予定としている取引委員会で取り決めを行うため。</p>
②卸売業者の業務の規制 (市場外販売の規制)	<p>現行</p> <p>○卸売業者は、開設区域内において卸売業の許可に係る生鮮食品等の卸売その他の販売をしようとする場合は、当該許可に係る業務として卸売をするときを除き、市長の承認を受けなければならない。</p> <p>○市長は、当該申請に係る販売が卸売の業務の適正かつ健全な運営を阻害するおそれがあると認めるときはこれを承認し、承認をしようとするときは、市場取引部会の意見を聴かななければならない。</p> <p>改正</p> <p>○現行のとおり</p> <p>理由</p> <p>○卸売業者は卸売業務の役割を重視し、仲卸業者、売買参加者との役割を維持するため。</p>
③卸売の相手方の制限 (第三者販売の規制)	<p>現行</p> <p>○卸売業者は仲卸業者及び売買参加者以外の者に対して卸売をしてはならない。ただし、次のいずれかに該当する場合はこの限りではない。</p> <p><例外規定></p> <p>①市場における入荷量が著しく多いか、品目・品質が特殊であるため残品を生じるおそれがある場合</p> <p>②仲卸業者及び売買参加者に卸売をした後、残品を生じた場合</p> <p>③他の卸売市場とあらかじめ締結した集荷の共同化その他の卸売の業務の連携に関する契約に基づき卸売する場合</p> <p>④農林漁業者及び食品製造業者等とあらかじめ締結した新商品の開発に必要な国内産の農林水産物の供給に関する契約に基づき卸売する場合</p> <p>改正</p> <p>○県内業者への第三者販売は原則禁止とする。ただし、下記の場合は例外とする。</p> <p><例外規定></p> <p>①市場における入荷量が著しく多いか、品目・品質が特殊であるため残品を生じるおそれがある場合</p> <p>②仲卸業者及び売買参加者に卸売をした後、残品を生じた場合</p> <p>③他の卸売市場とあらかじめ締結した集荷の共同化その他の卸売の業務の連携に関する契約に基づき卸売する場合</p> <p>④出荷者から販売先の指定があった場合</p> <p>⑤出荷者から希望価格の提示がありその価格に達しないもの又は出荷者から提示があるなしに関わらず、その価格で卸売すると出荷者が著しく不利益を被る場合</p> <p>⑥その他市長が認める場合</p> <p>○第三者販売を行う場合は、開設者への申請書・届出書は原則不要とする。ただし、例外規定⑥の場合は、開設者へ許可申請書を提出し、開設者の許可を受けなければならない。</p> <p>○市場内での取引が阻害されない範囲(買受人の需要を考慮)で行う。影響が認められた場合は、開設者から卸売業者へ改善を求めることができる。</p> <p>理由</p> <p>○卸売業者と買受人との役割を維持するため、規制を維持する。ただし、柔軟に対応できるよう例外規定を設ける。</p>
④卸売の相手方としての買受けの禁止 (自社買いの規制)	<p>現行</p> <p>○卸売業者は、卸売の業務を行う市場においてその許可に係る取扱品目の物品についてされる卸売の相手方として、物品を買い受けてはならない。</p> <p>改正</p> <p>○規定なし</p> <p>理由</p> <p>○取引にかかる卸売業者の柔軟な対応を可能とするため。</p>
⑤卸売業者の買受物品等の制限 (再上場の規制)	<p>現行</p> <p>○卸売業者は、仲卸業者又は売買参加者から一度卸売した物品の販売の委託を引き受け、又は買い受けてはならない。</p> <p>改正</p> <p>○卸売業者は、仲卸業者又は売買参加者から一度卸売した物品の販売の委託を引き受け、又は買い受けて卸売する場合、それ以外の物品と分けて上場し、買受人へ公表(物品に明示)しなければならない。</p> <p>理由</p> <p>○一度卸売した物品においても、場内の需給バランスを考慮した対応策として有効と考えられるため。</p>

事項	内容
⑥仲卸業者の業務の規制 (直荷引きの規制)	<p>○仲卸業者は、取扱品目の物品について販売の委託の引受けをしてはならない。</p> <p>○仲卸業者は、取扱品目の物品を市場の卸売業者以外の者から買い入れて販売してはならない。ただし市場の卸売業者から買い入れることが困難なものを買入れ販売しようとする場合であって、あらかじめ開設者の許可を受けているときは、この限りでない。</p> <p>○仲卸業者は、直荷引きを行う場合、仲卸業者は開設者に許可申請書を提出し、開設者の許可を受けなければならない。</p> <p>○仲卸業者は、直荷引きを行い販売した場合、その販売数量、金額等を開設者に届け出なければならない。仲卸業者はその金額に応じて使用料を納付しなければならない。</p> <p>○仲卸業者は、取扱品目の物品について販売の委託の引受けをしてはならない。(現行のとおり)</p> <p>○仲卸業者が、取扱品目の物品を市場の卸売業者以外の物から買い入れて販売する場合、原則自由とするが、一部条件を設ける。</p> <p><条件> ①卸売業者の確認をとること ②仲卸業者は、仕入れ数量の50%以上を直荷引きすることはできない。</p> <p>○仲卸業者は、直荷引きを行い販売した場合、販売数量、金額等を開設者に届け出なければならない。仲卸業者はその金額に応じて使用料を納付しなければならない。</p> <p>理由 ○仲卸業者と卸売業者との役割を維持するため。</p>
⑦仲卸業者の業務の規制 (市場外販売の規制)	<p>○仲卸業者は、開設区域内においてその許可に係る取扱品目の物品の販売をしようとする場合は、当該許可に係る業務として卸売をするときを除き、市長の承認を受けなければならない。</p> <p>○市長は、当該申請に係る販売が仲卸の業務の適正かつ健全な運営を阻害するおそれがあると認めるときはこれを承認し、承認をしようとするときは、市場取引部会の意見を聴かななければならない。</p> <p>改正 ○規定なし</p> <p>理由 ○仲卸業者の販売戦略のひとつとして制限を緩和するため。</p>
⑧卸売業者の許可制	<p>現行 ○卸売業者は宮崎県知事が許可を行う。 ○せり人は卸売業者が開設者へ届出を行う。</p> <p>改正 ○卸売業者は開設者が許可を行う。 ○せり人は卸売業者が開設者へ届出を行う。</p> <p>理由 ○開設者が市場卸売業者として適正であると認め、また、適切な指導監督を行うため許可制を維持する。</p>
⑨仲卸業者の許可制	<p>現行 ○仲卸業者は開設者が許可を行う。</p> <p>改正 ○現行のとおり</p> <p>理由 ○開設者が市場仲卸業者として適正であると認め、また、適切な指導監督を行うため許可制を維持する。</p>
⑩売買参加者の承認制	<p>現行 ○売買参加者は開設者が承認を行う。</p> <p>改正 ○現行のとおり</p> <p>理由 ○開設者が市場売買参加者として適正であると認め、また、適切な指導監督を行うため承認制を維持する。</p>
⑪買出人の登録制	<p>現行 ○買出人は開設者が登録を行う。</p> <p>改正 ○現行のとおり</p> <p>理由 ○開設者が市場買出人として適正であると認め、また、適切な指導監督を行うため登録制を維持する。</p>
⑫運営協議会	<p>現行 市場運営協議会を置き、協議会は運営に関する事項等について調査審議し、開設者に対して意見を述べることができる。</p> <p>改正 ○現行のとおり</p> <p>理由 ○幅広く意見を聴くために、必要であると考えているため。</p>